

SDGsを 変革の「道標」に 地域社会の未来を デザインする



滋賀銀行は、近江商人の「三方よし」の精神を継承した行是「自分にきびしく 人には親切 社会につくす」を原点に、「環境」「福祉」「文化」を3本柱とする「CSR経営」を展開しています。

世界は今、気候変動や海洋汚染、資源の枯渇、生態系破壊など、地球規模での環境問題に加え、爆発的な人口増加、先進国を中心とする少子・高齢化、格差拡大など、複雑に絡み合う様々な課題を抱えており、多くの人が、その未来と持続可能性に危機感を募らせています。

このような時代にあって私たちは、固定観念や既成概念を打ち砕き、時代の一步先を見据えた「変革」を生み出すことで、持続可能な社会を実現しなければなりません。そのために、理想とする未来を描き、それを起点に今何をすべきかを考える「バックカスティング」の発想と行動が求められています。

また、「変革」を生み出すためには、地域社会、お取引先をはじめとする多様なステークホルダーとの協働が欠かせません。「世界中の誰一人取り残さない」をスローガンとし、国連が2015年9月に採択したSDGs(持続可能な開発目標)も、誰もが社会的課題を「自分ごと」として捉え、パートナーシップ(連携)で解決することを呼びかけています。当行は、SDGsを世界の共通言語として活用し、地域の皆さまとともに、「金融」の力を通じて持続可能な社会の実現に取り組んでまいります。



本「CSRレポート2018」では、当行役職員一人ひとりが、地域のあるべき未来を見据えて社会的課題に立ち向かう、との決意を込め、「SDGsを変革の『道標』に地域社会の未来をデザインする」をテーマとしました。また、表紙のデザインは、「ダイバーシティ(多様性)」と「インクルージョン(包摂)」そして「パートナーシップ」を表現しました。一人ひとりが個性(色)を存分に発揮しながら、互いに連携してひとつの大きな力(輪)となる、との願いを込めています。

皆さまには、是非ご高覧賜りますとともに、当行のCSR活動に對しましてより一層のご支援をお願い申し上げます。

取締役頭取 高橋 祥二郎